

# ライフステージでみる対人関係

—「ライフデザイン白書2015年」調査からみた「親族」「友人・知人」—

上席主任研究員 宮木 由貴子

## 目次

1. はじめに	2
2. 心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人	3
3. 助言やアドバイスをしてくれる人	4
4. 能力や努力を評価してくれる人	5
5. 一緒に余暇や休日を楽しむ人	6
6. 今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人	8
7. 考察	9

## 要旨

- ① 人々にとって日々交流したり精神的に依存したりする人として、「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」はどのような人なのかを尋ねたものを、ライフステージごとに分析した。
- ② 全体的に「友人・知人」よりも「親族」に該当する項目をあげる人が多い。また、男性より女性で多くの項目があげられた。独身の人では「いない」とする回答が多かった。この傾向は40歳以上の独身男性で特に強い。
- ③ 子どものいる女性では「子どもを通じての友人」や「地域や近所の人」など、他のライフステージではあまりあげられない項目をあげる人が多かった。末子が就学終了の時期になると、男性では「配偶者」をあげる人が多くなるのに対し、女性は「子ども」をあげる人が多い傾向がある。この傾向は女兒が少なくとも1人以上いる母親で特に強く、母娘の関係性が強いことがうかがえた。
- ④ ライフステージや家族構成によって対人関係の状況は大きく異なる。今後、自分の対人関係の在り方については将来を見据えて個々に考える必要がある。

キーワード：対人関係、つきあい、ライフデザイン白書

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

ライフスタイルや価値観が多様化し、情報通信の発達に伴うコミュニケーション環境の大きな変化がある中、人々にとって日々交流したり精神的に依存したりする人、例えば「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」はどのような人なのだろうか。

第一生命経済研究所で実施している「今後の生活に関するアンケート」では、これらについても調査を行っている。同調査は、第一生命経済研究所が人々のライフデザインや生活意識について尋ねているもので、その結果は当時のライフデザイン研究所（現 第一生命経済研究所）が1995年から20年にわたって「ライフデザイン白書」として発行してきたものである。

本稿では、「ライフデザイン白書 2015年」には掲載しなかった対人関係の設問についてデータを紹介し、分析と考察を試みる。

### (2) 調査概要

調査概要は図表1のとおりである。

図表1 調査概要

調査対象	全国の満18～69歳の男女個人
調査実施期間	2015年1月29日～30日
抽出方法	調査機関の登録モニター118万人から国勢調査に準拠して地域（10エリア）×性・年代×未既婚別にサンプルを割付
調査方法	インターネット調査
有効回答数	7,256サンプル
調査機関	株式会社マクロミル

## 2. 心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人

「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」についてみたところ、全体的に「友人・知人」より「親族」に該当する項目をあげる割合が高かった（図表2）。

特に「末子が未就学」の女性では親族に該当する項目のいずれかをあげた「親族合計」において93.8%を占めた。また、選択した項目数の平均値を示す平均回答項目数も3.7と最も多い。「末子が未就学」の女性では、「配偶者の親」「兄弟姉妹」「地域や近所の人」「配偶者を通じての友人」をあげた割合が他のライフステージに比べて最も高い。特に「兄弟姉妹」については41.3%を占めて突出している。また、「自分の親」では65.5%、「学校・学生時代の友人」では46.9%を占め、「子どもを通じての友人」「職場や仕事関係の人」なども他のライフステージと比べると比較的高い値を示している。

図表2 心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人(性・ライフステージ別)＜複数回答＞ (単位：%)

	親族							友人・知人							誰もいない	平均回答項目数	
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人			友人・知人合計
<b>【男性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	<b>54.6</b>	0.0	21.4	9.1	57.5	<b>30.2</b>	8.0	0.0	0.0	16.0	5.2	15.1	46.1	25.6	1.6
夫婦のみ(39歳以下)	<b>83.1</b>	0.0	44.1	17.4	18.7	7.1	90.8	<b>22.9</b>	4.8	2.1	0.0	22.5	1.6	9.0	36.5	6.9	2.3
末子が未就学	<b>76.6</b>	7.6	36.6	12.3	17.0	6.6	86.6	<b>24.2</b>	4.0	2.2	3.1	20.1	3.4	6.2	37.6	9.6	2.2
末子が小・中学生	<b>67.9</b>	12.6	28.6	10.5	11.1	3.2	75.8	15.1	5.3	1.7	2.6	<b>20.9</b>	3.0	6.7	34.6	17.3	1.9
末子が高校・大学生	<b>67.6</b>	13.3	16.9	7.2	14.3	6.0	75.5	13.8	1.3	0.5	0.3	<b>16.3</b>	2.1	7.0	31.0	15.3	1.7
末子が就学終了	<b>71.3</b>	19.5	6.3	2.8	14.7	5.6	77.6	9.4	2.7	1.0	0.3	<b>10.5</b>	3.9	8.8	27.8	15.5	1.6
独身(40歳以上)	0.0	0.0	<b>26.9</b>	0.0	23.5	6.0	38.4	12.3	6.0	0.0	0.0	12.9	4.6	20.2	38.9	37.3	1.1
夫婦のみ(40歳以上)	<b>83.5</b>	0.0	22.3	8.6	14.4	4.1	86.2	<b>14.2</b>	3.1	2.9	0.0	13.7	2.3	8.9	30.1	9.5	1.8
<b>【女性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	<b>62.4</b>	0.0	32.6	12.7	68.8	<b>54.8</b>	13.1	0.0	0.0	26.3	2.5	25.1	72.5	9.2	2.3
夫婦のみ(39歳以下)	<b>83.0</b>	0.0	68.1	14.9	36.3	10.9	91.4	<b>44.5</b>	6.3	3.2	0.0	31.8	1.8	19.4	62.6	3.2	3.2
末子が未就学	<b>78.3</b>	12.4	65.5	20.0	41.3	10.5	93.8	<b>46.9</b>	5.2	8.3	28.5	24.7	15.3	13.4	69.5	2.4	3.7
末子が小・中学生	<b>60.5</b>	38.3	56.0	10.1	26.6	6.8	89.8	33.5	7.6	3.5	<b>35.3</b>	19.7	12.6	19.5	64.1	2.5	3.3
末子が高校・大学生	<b>55.7</b>	51.2	27.1	4.6	23.8	3.9	82.2	<b>24.4</b>	11.3	0.9	18.4	16.2	10.0	17.3	54.9	7.2	2.6
末子が就学終了	57.0	<b>61.8</b>	14.6	2.1	32.3	10.1	87.0	<b>22.1</b>	14.7	1.5	11.2	14.5	11.7	20.8	55.9	4.9	2.7
独身(40歳以上)	0.0	0.0	<b>38.2</b>	0.4	33.0	14.2	56.7	24.2	13.4	0.4	0.0	18.7	4.4	<b>34.7</b>	61.2	16.8	1.8
夫婦のみ(40歳以上)	<b>79.7</b>	0.0	33.6	6.7	26.4	8.2	87.3	<b>30.4</b>	11.0	4.8	0.0	18.2	4.3	24.9	56.4	4.4	2.5

注:ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

「夫婦のみ」(39歳以下・40歳以上とも)の男性で「親族合計」が多いのは、「配偶者」をあげた人が8割を超えていることによる。男女ともに、ライフステージが上がるにつれて「配偶者」をあげる人は減少し、「末子が就学終了」となると再び上昇に転じるが、女性では男性ほど上昇せず、夫婦間で温度差がある様子が見えられた。「末子が就学終了」の女性では、「子ども」が「配偶者」を上回っており、子どもが母親の心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人になるようだ。

一方、「友人・知人」についてみると、「友人・知人合計」は全体的に男性より女性で回答が多く、特に「独身(39歳以下)」の女性で72.5%と多い。また、「末子が小・中学生」の女性では「子どもを通じての友人」(いわゆる「ママ友」)をあげた人が多く、「子どもを通じての友人」との交流が活発であることから、この時期の心配ごとや悩みごとが子どもにかかわるものが多い点が見えられた。

なお、「誰もいない」とする人が最も多かったのは「独身(40歳以上)」の男性(37.3%)で、平均回答項目数も1.1と最も少なかった。これは平均回答項目数が最も多い「末子が未就学」の女性の3分の1にも満たない値である。これに「独身(39歳未満)」の男性が25.6%で続いた。

### 3. 助言やアドバイスをしてくれる人

続いて「助言やアドバイスをしてくれる人」についてみると、「末子が未就学」の女性で「親族合計」(90.1%)が他のライフステージと比べて最も高く、「友人・知人合計」(59.9%)の割合も「独身(39歳以下)」の女性に次いで高くなっており、平均回答項目数も3.2と最も多かった(図表3)。

女性では助言・アドバイスをしてくれる人として、「子ども」「自分の親」「兄弟姉妹」をあげた人が男性より多いが、「配偶者の親」について性差はみられなかった。

また、「末子が小・中学生」の女性では「子どもを通じての友人」をあげた人がここでも多かった。

なお、「独身(40歳以上)」の男性の41.2%が「誰もいない」としており、40歳以上の独身男性の5人に2人は助言やアドバイスをしてくれる人を持たないことがわかった。

図表3 助言やアドバイスをしてくれる人(性・ライフステージ別)〈複数回答〉

(単位：%)

	親族						親族合計	友人・知人										誰もない	平均回答項目数
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族		学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人	友人・知人合計				
<b>【男性】</b>																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	48.5	0.0	19.1	9.6	53.7	28.9	9.3	0.0	0.0	24.6	5.7	15.0	50.4	26.5	1.6		
夫婦のみ(39歳以下)	70.6	0.0	40.2	21.4	20.8	11.1	82.1	21.1	8.7	2.3	0.0	34.3	4.0	12.0	47.2	7.9	2.5		
末子が未就学	54.8	6.5	45.8	23.0	17.6	6.9	74.3	21.9	5.7	3.8	4.0	30.9	5.6	7.0	44.0	12.7	2.3		
末子が小・中学生	49.5	9.2	37.6	19.2	14.9	7.5	70.8	15.7	5.6	3.7	5.3	33.1	6.1	8.9	45.5	15.8	2.2		
末子が高校・大学生	51.9	10.4	20.0	9.9	14.3	6.3	63.0	13.8	4.8	2.9	1.8	26.3	6.2	6.7	37.4	22.1	1.8		
末子が就学終了	52.2	15.1	6.5	4.2	15.5	7.4	65.6	11.1	6.3	1.9	1.4	18.8	7.1	9.4	37.4	19.5	1.6		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	23.7	0.3	18.7	6.7	34.0	10.6	6.8	0.2	0.0	16.9	4.5	17.5	40.0	41.2	1.1		
夫婦のみ(40歳以上)	65.5	0.0	23.6	12.5	18.4	7.0	75.0	16.5	6.3	3.0	0.0	23.6	4.3	6.7	36.0	14.5	1.9		
<b>【女性】</b>																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	58.0	0.0	30.0	14.4	65.7	47.5	12.2	0.0	0.0	33.6	3.5	21.8	69.7	12.1	2.2		
夫婦のみ(39歳以下)	73.8	0.0	69.7	23.6	30.1	11.7	89.6	33.9	5.3	4.3	0.0	29.7	4.5	14.8	54.9	4.9	3.0		
末子が未就学	64.0	7.3	67.7	25.3	33.1	10.5	90.1	36.6	4.3	5.8	23.1	21.0	11.5	10.1	59.9	4.1	3.2		
末子が小・中学生	46.7	21.2	49.8	13.3	22.1	6.2	82.6	23.4	6.5	2.6	26.2	19.7	9.7	13.1	55.9	6.4	2.6		
末子が高校・大学生	49.5	34.1	24.5	8.4	22.5	5.8	75.3	21.3	13.3	2.6	15.7	19.7	8.7	16.5	54.8	8.9	2.4		
末子が就学終了	49.6	45.1	13.7	2.7	24.7	7.4	77.5	17.5	13.6	1.5	7.8	15.3	10.5	20.2	53.1	7.9	2.3		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	31.6	0.0	27.8	14.0	49.9	20.5	14.6	0.8	0.0	24.4	5.8	31.1	58.0	22.6	1.7		
夫婦のみ(40歳以上)	68.8	0.0	32.2	10.3	23.8	7.6	81.7	22.9	9.2	3.9	0.0	17.3	2.4	19.3	49.7	9.1	2.2		

注：図表3に同じ

#### 4. 能力や努力を評価してくれる人

「能力や努力を評価してくれる人」についてみたところ、先の2項目と同様に「末子が未就学」の女性で最も平均回答項目数が多く(2.6)、「独身(40歳以上)」の男性で最も少なかった(0.9)(図表4)。全体的に女性では男性より「親族合計」の値が高いが、これは女性で「自分の親」をあげた人が多いことが影響していると考えられる。また、女性では「末子が小・中学生」となると、「配偶者」「自分の親」をあげる人が急激に少なくなり、「子ども」が自分の能力や努力を評価してくれる人と認識される傾向がある。

一方で、男性は女性より就業者が多いこともあり、男性では「友人・知人」の中で「職場や仕事関係の人(元同僚含む)」をあげた人が女性より多かった。それにもかかわらず、「友人・知人合計」でいずれのライフステージでも女性が男性を上回っている

のは、女性では「趣味や習い事を通じての友人」「子どもを通じての友人」などで男性を上回り、対人関係の幅が広い点が影響しているものと推察される。これにより、平均回答項目数も女性が男性を全体的に上回る結果となっている。

なお、「誰もいない」とする割合はやはり「独身(40歳以上)」の男性で多く、46.0%を占めた。これに「独身(39歳未満)」の男性が32.8%で続いている。

図表4 能力や努力を評価してくれる人(性・ライフステージ別)〈複数回答〉

(単位：%)

	親族							友人・知人							誰もいない	へ平均回答項目数	
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人			友人・知人合計
<b>【男性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	39.0	0.0	15.9	8.0	43.2	24.2	8.4	0.0	0.0	26.0	4.8	11.8	48.0	32.8	1.4
夫婦のみ(39歳以下)	69.6	0.0	35.0	21.3	14.0	6.2	76.4	14.2	3.1	2.9	0.0	32.9	2.2	9.4	41.9	10.4	2.1
末子が未就学	56.4	10.4	27.8	17.5	10.7	6.0	68.7	15.9	4.6	3.3	3.0	33.7	4.2	4.9	44.2	15.8	2.0
末子が小・中学生	50.4	17.2	24.8	14.1	10.0	5.2	59.9	12.2	5.2	2.2	1.8	36.2	5.1	8.2	45.7	21.7	1.9
末子が高校・大学生	49.4	20.6	15.9	10.4	10.2	6.5	60.4	11.7	3.6	2.2	1.4	31.3	5.4	5.8	40.9	21.7	1.7
末子が就学終了	55.3	25.3	6.9	5.4	10.8	5.1	63.4	9.3	5.4	1.7	0.9	22.7	8.0	8.0	38.0	20.9	1.6
独身(40歳以上)	0.0	0.0	15.7	0.0	13.5	4.6	23.1	7.8	8.6	0.0	0.0	21.6	3.6	14.6	40.7	46.0	0.9
夫婦のみ(40歳以上)	66.3	0.0	19.3	11.5	10.1	4.9	71.3	12.4	3.9	3.0	0.0	25.9	5.4	6.6	34.7	17.5	1.7
<b>【女性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	49.1	0.0	22.3	15.7	54.9	37.9	13.5	0.0	0.0	37.7	4.8	17.2	67.0	16.2	2.0
夫婦のみ(39歳以下)	72.3	0.0	47.4	15.4	19.9	8.0	81.9	22.1	4.5	1.6	0.0	28.6	2.0	10.6	44.7	8.2	2.3
末子が未就学	61.0	13.9	44.9	17.9	24.6	7.4	82.5	26.2	5.0	4.1	14.0	22.4	6.7	8.5	49.6	10.2	2.6
末子が小・中学生	38.6	31.1	31.0	12.1	13.6	5.3	66.7	16.7	7.2	2.8	16.1	23.9	7.2	8.9	48.8	18.0	2.1
末子が高校・大学生	40.6	35.0	19.8	5.2	13.8	3.6	61.9	14.6	11.0	1.7	11.9	21.7	5.3	13.2	48.3	17.7	2.0
末子が就学終了	46.4	45.2	13.6	2.8	19.6	7.9	70.7	15.0	14.0	2.0	7.5	17.8	10.3	16.5	50.5	12.4	2.2
独身(40歳以上)	0.0	0.0	26.4	0.0	17.9	11.3	38.9	18.2	13.4	0.0	0.0	33.0	2.8	24.1	57.2	25.9	1.5
夫婦のみ(40歳以上)	65.3	0.0	29.6	7.1	21.2	6.5	73.8	19.2	8.7	4.0	0.0	19.8	3.5	18.1	46.5	12.6	2.0

注：図表3に同じ

## 5. 一緒に余暇や休日を楽しむ人

「一緒に余暇や休日を楽しむ人」についてみると、これまでとは若干異なる傾向がみられた。女性の「末子が未就学」と「夫婦のみ(39歳以下・40歳以上)」で「親族合計」の値が高い点は他と同様だが、「末子が未就学」の男性で「親族合計」の値が9割を超えて高い(図表5)。これは、末子が未就学の時期ということで、子どもが小さいと家族で余暇や休日を過ごす機会が多いことによる。実際に、「末子が未就学」の男

性で「子ども」をあげた人は80.7%にのぼる。ライフステージがあがるにつれて、「子ども」をあげる割合は大きく下がる。

「末子が小・中学生」の女性では、「親族」としては「子ども」を、「友人・知人」としては「子どもを通じての友人」をあげた人が最も多かった。

子どもが手を離れる時期である「末子が就学終了」の男性では68.7%が「配偶者」をあげているが、同時期の女性で「配偶者」を上げる人は55.5%にとどまり、「子ども」や「学校・学生時代の友人」「趣味や習い事を通じての友人」「その他の個人的友人」などをあげた割合が男性に比べて高く、この時期の女性のつきあいが男性より幅広い様子がうかがえた。

「誰もいない」とする割合は、「独身（40歳以上）」の男性で42.7%を占めた。

図表5 一緒に余暇や休日を楽しむ人(性・ライフステージ別)＜複数回答＞

(単位：%)

	親族						親族合計	友人・知人							誰もいない	平均回答項目数	
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族		学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習い事を通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人			友人・知人合計
<b>【男性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	26.0	0.0	17.0	5.8	32.4	42.4	13.9	0.0	0.0	13.3	3.7	21.9	60.4	27.4	1.4
夫婦のみ(39歳以下)	89.0	0.0	14.3	10.5	10.8	2.4	89.4	21.8	7.3	5.2	0.0	12.8	2.6	10.2	36.5	6.9	1.9
末子が未就学	79.7	80.7	14.1	11.9	11.6	4.6	92.2	18.8	10.8	8.7	6.1	10.2	3.6	8.2	31.2	5.1	2.7
末子が小・中学生	70.5	72.7	9.3	5.2	4.1	2.4	85.7	12.4	11.3	3.5	6.9	9.2	3.9	7.9	31.6	8.1	2.2
末子が高校・大学生	64.9	42.4	6.7	5.7	4.8	2.9	71.9	12.1	9.7	3.3	4.1	10.4	5.4	7.7	30.3	17.7	1.8
末子が就学終了	68.7	30.7	2.8	2.3	5.1	4.7	75.0	12.8	10.2	4.2	2.3	12.6	6.2	11.0	34.7	13.7	1.7
独身(40歳以上)	0.0	0.0	12.9	0.0	7.2	2.9	16.9	13.6	12.7	0.0	0.0	10.0	3.5	25.2	46.3	42.7	0.9
夫婦のみ(40歳以上)	83.1	0.0	11.8	7.6	8.4	5.1	84.5	13.6	10.9	5.6	0.0	9.0	5.9	9.1	34.7	8.8	1.7
<b>【女性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	51.0	0.0	37.4	12.6	60.0	59.8	19.1	0.0	0.0	17.7	2.8	28.9	77.9	10.6	2.3
夫婦のみ(39歳以下)	88.8	0.0	33.2	9.7	23.3	7.3	93.1	37.9	7.1	9.5	0.0	19.1	1.6	19.1	55.3	3.1	2.6
末子が未就学	81.2	82.8	31.4	9.2	21.0	5.7	98.1	31.5	4.9	8.7	17.0	10.0	4.6	9.0	49.4	1.0	3.2
末子が小・中学生	60.0	83.0	18.1	5.1	9.1	3.6	91.1	19.3	8.2	3.0	20.1	8.2	5.4	12.2	44.0	3.5	2.6
末子が高校・大学生	56.3	57.2	11.5	2.2	11.7	2.1	80.5	20.8	13.6	1.3	14.1	10.3	5.7	19.2	51.7	7.1	2.3
末子が就学終了	55.5	49.4	7.5	1.7	15.6	5.3	80.2	18.9	16.4	3.1	10.4	12.7	10.5	21.1	53.4	6.3	2.3
独身(40歳以上)	0.0	0.0	26.8	0.4	21.5	8.8	40.7	26.8	19.3	0.9	0.0	17.3	3.4	38.3	67.5	19.2	1.6
夫婦のみ(40歳以上)	86.0	0.0	19.8	3.3	14.6	3.1	87.3	23.5	12.1	5.7	0.0	12.6	2.8	17.9	47.2	7.4	2.0

注：図表3に同じ

## 6. 今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人

最後に、「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」についてみる。これまでの結果と異なる点は、「親族」と「友人・知人」の差が小さい、もしくは「友人・知人」が「親族」を上回るライフステージが女性で多いことである（図表6）。現状では親族との交流が強いものの、今後は友人・知人と人間関係やつきあいを深めていきたいとの意識があるようだ。

特に「末子が高校・大学生」「末子が就学終了」の女性では「友人・知人合計」の値が高く、「親族合計」を上回っている。一方で、同時期を含む男性は、独身以外では「友人・知人合計」より「親族合計」のほうが若干多かった。

なお、「誰もいない」とする割合は、「独身（40歳以上）」の男性で45.5%を占めた。

図表6 今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人（性・ライフステージ別）＜複数回答＞（単位：％）

	親族							友人・知人							誰もいない	平均回答項目数	
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人（同窓生含む）	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人（元同僚含む）	地域や近所の人	その他の個人的友人			友人・知人合計
<b>【男性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	26.9	0.2	18.6	9.2	32.4	36.6	14.6	0.2	0.0	20.3	10.0	22.9	58.9	30.3	1.6
夫婦のみ(39歳以下)	68.3	0.0	29.1	35.2	22.8	20.0	79.5	27.3	14.2	16.0	0.0	28.6	15.0	18.8	51.5	12.5	3.0
末子が未就学	55.7	49.7	27.1	27.0	23.1	16.0	68.1	27.5	14.7	14.7	16.2	26.8	18.9	12.7	49.5	18.4	3.3
末子が小・中学生	48.2	40.3	23.1	20.0	17.2	11.7	58.9	24.0	16.7	12.1	12.6	26.3	18.2	15.0	51.3	21.2	2.9
末子が高校・大学生	43.0	30.9	9.8	8.4	10.8	7.2	51.6	18.8	15.0	6.1	6.6	21.3	17.5	14.8	47.1	23.6	2.1
末子が就学終了	42.7	24.5	3.6	5.7	13.6	10.7	51.6	17.8	11.9	7.2	5.1	19.7	20.3	14.6	49.6	23.9	2.0
独身(40歳以上)	0.0	0.0	9.4	0.2	10.4	7.9	17.2	13.2	12.9	0.7	0.0	13.5	9.0	27.3	47.0	45.5	1.0
夫婦のみ(40歳以上)	58.1	0.0	16.2	16.0	15.7	11.2	65.7	20.5	15.5	9.8	0.0	15.2	11.5	16.6	43.6	17.5	2.1
<b>【女性】</b>																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	39.9	0.0	31.3	15.2	46.5	55.3	18.9	0.0	0.0	26.9	8.8	27.9	75.4	15.0	2.2
夫婦のみ(39歳以下)	66.3	0.0	43.1	36.0	33.4	22.0	80.6	34.4	10.6	19.5	0.0	20.5	10.5	21.7	58.9	8.5	3.2
末子が未就学	57.6	52.5	42.9	28.0	35.0	17.8	77.6	40.9	11.5	15.5	38.9	23.6	26.7	19.6	68.8	8.1	4.1
末子が小・中学生	39.2	51.7	26.5	10.4	21.7	9.0	65.4	26.4	11.0	5.1	29.1	18.2	14.1	20.7	61.5	12.5	2.8
末子が高校・大学生	37.0	38.9	18.6	6.6	20.3	6.2	58.1	28.1	16.6	2.4	18.1	12.9	12.8	21.9	63.5	16.9	2.4
末子が就学終了	39.6	45.4	10.3	3.2	25.6	10.1	63.4	23.9	19.7	3.9	11.4	14.1	21.6	24.4	65.6	12.1	2.5
独身(40歳以上)	0.0	0.0	22.8	0.0	23.6	12.6	35.8	24.1	19.6	0.4	0.0	18.1	8.5	39.5	63.4	26.4	1.7
夫婦のみ(40歳以上)	63.9	0.0	27.6	13.2	25.8	12.3	73.7	29.6	17.8	9.5	0.0	19.7	10.4	26.4	64.4	9.4	2.6

注：図表3と同じ

## 7. 考察

### (1) 全体的な傾向

#### 1) 子どもが就学終了する時期の夫婦間ギャップ

まず、子どもがいる人のうち、子どもが就学終了する時期の夫婦の関係についてみる。男性は子どもが小さい頃は「職場や仕事関係の人」という交流の対象者がいるが、子どもが就学終了する時期は仕事も引退する時期と重なることもあり、交流の対象者が配偶者に集約される傾向がある。一方で、女性は男性に比べて多様な対人関係を持っているといえる。

特に子どものいる女性は「子どもを通じての友人」や「地域や近所の人」「趣味や習い事を通じての友人」などとの関係を育てているケースが多く、男性に比べて交流する相手が幅広い。これにより、子どもが独立する時期になって、交流する相手としての期待の度合いが夫婦間で異なる可能性が示唆された。すなわち、子どもが独立して仕事も引退する時期に、夫が妻との交流を積極的に行おうとしても、妻は既に多様な対人関係を持っている状況が発生するのである。

#### 2) 母親と子どもとの関係

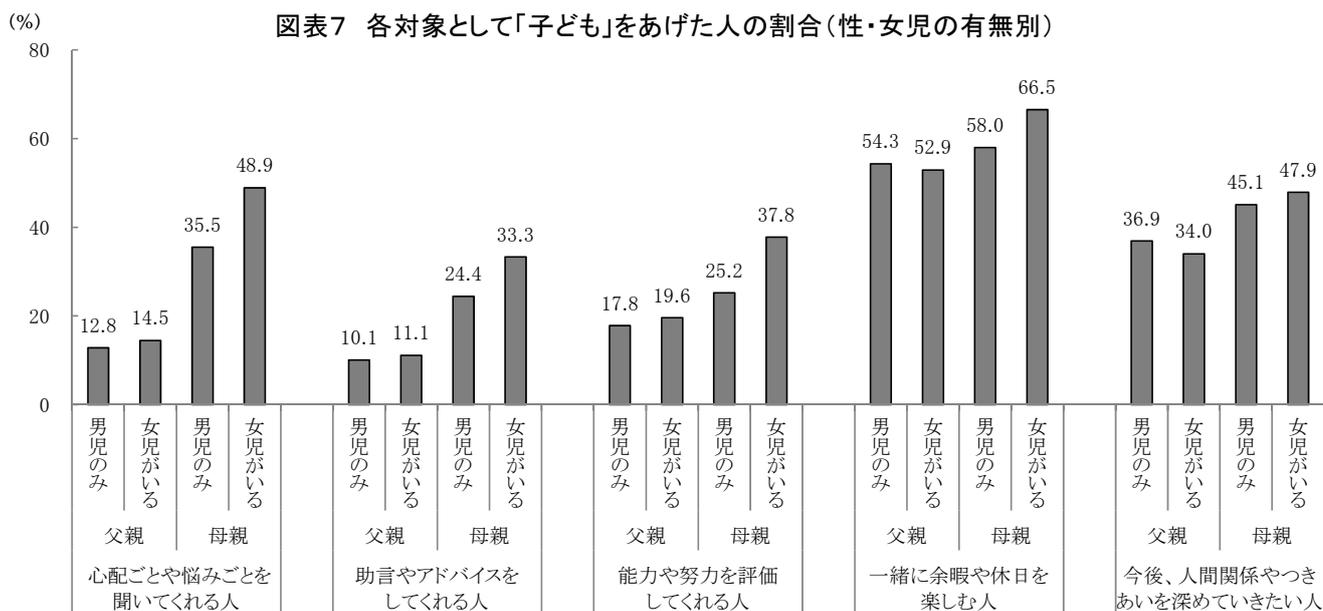
さらに男女で差がみられたのが、子どもの年齢が上がった時期の親子関係である。女性は就学終了後の子どもに心配ごとや悩みごとを聞いてもらったり、一緒に余暇や休日を楽しんだりする傾向があるが、男性は女性に比べてそうした傾向は強くない。

さらにこれを女兒の有無別に分析を行ったところ、女兒が少なくとも1人以上いる母親では、女兒がいない母親よりも「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」として「子ども」をあげる割合が高いことが確認された(図表7)。これに対し、父親では「子ども」をあげる割合に子どもの性別による差はみられなかった(「男児の有無別」の図表については省略)。例えば将来的に夫が妻を精神的な支えと考えているのに対して妻は夫より娘を頼りにしていたり、何かと母娘で密着したりなど、家庭に女兒がいるか否かによって、子どもが成長した時期の夫婦関係や親子関係が左右される可能性が示唆された。

#### 3) 独身男性の対人関係

また、独身者についてみると、その対人関係の幅は特に40歳以上の男性で低かった。「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」のいずれにおいても、40歳以上の独身男性では「誰もいない」とする人が多く、平均回答項目数も少なかった。

図表7 各対象として「子ども」をあげた人の割合(性・女児の有無別)



注:子どもがいる人のうち、少なくとも女児が1人以上いる人は「女児がいる」、女児が1人もいない人は「男児のみ」とした

## (2) 今後に向けて

今後、独居者が増加するとされているが、単なる「1人暮らし」ではなく、日々交流したり精神的に依存したりする人を持たずに、孤独を感じる人の増加が懸念される。物理的に支えてくれる人がいない不自由さのみならず、精神面で支えがないことは、QOL (Quality of Life: 生活の質)の観点からみて重要な課題である。

調査結果にあるように、配偶者がいても、仕事を引退した後、配偶者間で交流の期待度合いが異なるケースも少なくない。女性が男性より多様なネットワークを持つ背景には、女性が子どもを介したつながりや地域との付き合いといった交流の必然性が多いという要因以外に、子どもが小さくて家庭生活が多忙な時期に夫の労働時間が長いなどの理由で、夫婦で十分に向き合う時間を持たず、コミュニケーション相手を他の親族や外部に求めるケースも少なからずあるだろう。

1人暮らしか誰かと同居しているかにかかわらず、孤独感のある生活となる可能性は誰にでもある。自分を精神面で支えてくれる対人関係の構築は、一朝一夕でできるものではない。長期化する高齢期を見据え、精神的な支えとなる対人関係を構築するにあたっては、まずは自分が心配ごとや悩みごとを「聞く人」、能力や努力を「評価する人」、助言やアドバイスを「求められる人」としてどうあるべきかを考え直し、周囲から一緒に余暇や休日を「楽しみたい人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」と認識されるように、地道な行動を重ねなければならないのではないだろうか。

(研究開発室 みやき ゆきこ)